

科目担当者氏名 (ふりがな) ともざわ かずお 友澤 和夫 ほか3名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)
連絡責任者氏名 (ふりがな) ふくた せいし 福田 恵		科目設置機関名 広島大学文学部
授業科目名 地理学野外演習 地理学野外実験	科目認定番号 HRMa-081301-2 HRMa-081401-2 1713	受講者数 7 (社会調査士資格を希望している者 で単位を取得したものは1名)

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：「地理学野外演習」で学生各自が計画したテーマにそって、「地理学野外実験」にて現地調査実習を行い、それを報告書にまとめるという形で実施した。卒業論文のいわば練習としての位置づけがある。現地では、とくにインタビューを主体とした調査を実行したが、先方への事前の連絡や当日の訪問も学生個人が行い、教員はそのための相談役・アドバイザー役に終始した。報告書は教員のチェックを経た内容となっている。2017年度は滋賀県で実施したが、受講した学生はいずれも真面目に取り組み、まずまずの成果を得ることができたと評価している。

## II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：滋賀県におけるローカルスーパーチェーンの立地戦略と存立基盤
2. 調査の内容/概要：滋賀県に所在するローカル食品スーパーの立地戦略とその存立基盤をヒアリング調査に基づき明らかにする。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：質的調査に依拠した。滋賀県にはローカルスーパーチェーンが4社存在するが、その中から本調査への協力が得られた2社を対象として、それらの事業内容にかかわる詳細なインタビュー調査を実施した。
4. 主な調査項目：滋賀県小売業の全体動向については、統計資料を活用して概要を把握した。ローカルスーパーチェーンについては歴史と概要、出店・閉店の動向、仕入れ先と従業員構成の特徴、配送システム、商品構成や陳列の特徴、今後の戦略などを主に聞き取った。2社ともに協力的で、有効な情報を収集することができた。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：現地でのインタビュー調査、各種資料の収集による。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：2017.6.26から28にかけて実施した。調査地は滋賀県南部であり、学生1名 (B154895 迫田和也) が実施した。
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：本調査では企業へのインタビューを主とした質的調査である。事前に調査項目を先方に送付しており、現地調査では質的に高い情報が入手できたと評価する。ただし、項目によっては詳細な情報入手が困難であったものもある。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：学生が調査により収集したデータと、既存文献や統計類を組み合わせて分析・解釈する方法をとった。
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：ローカルスーパーの立地戦略と存立基盤を、2社を対比する形で検討し、共通点や差異を見出している。共通点としては、①他のチェーンとの立地上の競合回避と道路交通の利便性が高い場所への立地嗜好、②地元顧客の特性に合わせた品そろえの徹底、③接客上の工夫、が見出され、地域密着性を強めることで生き残りを図ることが明らかになった。
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は既に作成済みである。

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
  2. 最上部の\*印の箇所には数字を(「\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
  3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。
  4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。